

科目名	解剖生理学Ⅲ		時期	時間	単位
担当教員	非常勤講師		1年次	後期	30時間 1単位
科目設定理由	最近の医学と医療技術は急速に進化・発展し、社会とのかかわりはきわめて密接になり、医療に対する期待とニーズも大きくなってきている。解剖学と生理学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護師を含む医療専門職の教育においては最も重要な基盤（基礎）となるものである。そこで、個人の健康にかかわる人体についての知識や理解を深め、解剖学と生理学を融合させて人体の構造と機能を学習し、看護実践に活かすために当該科目を設定した。				
学習目標	人体の発生と構成する単位(神経系、皮膚)を学び、人体の構造を理解する				
授 業 計 画					
回数	項目	内 容			備 考
1～12	3章 呼吸と血液のはたらき	1 血液（血球）			講義
		2 血液（血漿）			
	8章 情報の受容と処理	1 神経系の構造と機能			講義
		2 脳と脊髄（中枢神経系）			
		3 脊髄神経と脳神経（末梢神経系）			
		4 感覚器と伝導路（特殊感覚）			
		5 感覚器と伝導路（一般感覚）			
6章 内臓機能の調節	6 運動と伝導（錐体路と錐体外路）			1 自律性調節の構造と機能	
13～14	系統解剖学実習	1 解剖体、諸臓器の観察			演習
15	試験	まとめ			
使用テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学		坂井 建雄 他	医学書院	
	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 病態生理学		土居 健太郎	医学書院	
参考図書・資料等	新版 体の地図帳		佐藤 達夫	講談社	
評価方法	筆記試験等から総合的に判断する				